

(10)会議の開催状況  
大学研究成果移転促進会議の実績

(様式 9)

No.1	H 1 2 年度	開催日時	平成 1 2 年 1 0 月 2 5 日 (水) 14:00 ~ 16:30
		開催場所	ホテルケイエスピー「フォーラム」
	出席者		2 9 名
	議題		R S P 事業概要説明 平成 1 2 年度育成試験候補課題について R S P 事業の進め方に関する意見交換 平成 1 2 年度育成試験課題承認について
	結論		<p>ネットワーク構築型 R S P 事業から研究成果育成型 R S P 事業への移行に伴い、産総研から K T F へ拠点変更した。基礎研究の成果から技術を見抜き新技術としての育成を図るプロジェクト・コーディネータ 4 人を配置して、大学や公的研究機関に蓄積された研究成果(研究シーズ)を企業のニーズに結びつけるコーディネート活動を強化し、先端的科学技術の育成と実用化を一層推進する。</p> <p>プロジェクト・コーディネータから平成 1 2 年度の育成試験候補の 8 課題に関する説明があった。</p> <p>本事業の目的である「実用化に向けての体制整備」の捕らえ方の点では、大学と産業界の考え方に乖離があることを実感した。しかし、実用化を達成するためには、育成試験費予算が少ないことは明確であるが、そのための布石(体制整備:特許化・大型予算事業への橋渡し)を打ち、ビジネスプランを K T F から提供するなど、コーディネート活動の重要性を改めて確認した。</p> <p>プロジェクト・コーディネータからの提案に基づき、8 課題が平成 1 2 年度の育成試験課題として承認された。なお、補欠課題については、プロジェクト・コーディネータの責任において、順位付けを行うものとした。</p>
No.2	H 1 3 年度	開催日時	平成 1 3 年 7 月 3 日 (水) 14:00 ~ 16:50
		開催場所	ホテルケイエスピー「フォーラム」
	出席者		2 7 名
	議題		平成 1 2 年度事業報告 平成 1 3 年度事業計画 平成 1 3 年度育成試験課題について R S P 事業, 産学連携等についての意見交換
	結論		<p>平成 1 2 年度においては、ネットワーク構築型で形成した県内大学とのネットワークを引継ぎ、事業の実施体制を構築した。育成試験やフォーラムの実施により橋渡しを進めた。</p> <p>昨年度築いた体制を元に、事業をより一層効率的に進める。</p> <p>科学技術コーディネータから平成 1 3 年度の育成試験候補の 1 0 課題に関する説明があり、質疑応答の後、育成試験課題として承認された。なお、補欠課題については、コーディネータに一任し、順位付けや採択等の取扱いを行うものとした。</p> <p>大学側からも、産業界からも、連携を活発化したいとの意見がでた。</p>

大学が企業の下請けにならないような形をとることや、ビジネスモデルや期間を明確にして進めることが重要である。

---

No.3	H 1 4 年度	開催日時	平成 1 4 年 6 月 5 日 ( 水 ) 14:00 ~ 16:50
		開催場所	ホテルケイエスピー 7 0 9 会議室
	出席者		2 9 名
	議題		平成 1 3 年度事業報告 平成 1 4 年度事業計画 平成 1 4 年度育成試験課題について R S P 事業 , 産学連携等についての意見交換
	結論		平成 1 3 年度においては、事業の実施体制を整え、育成試験やフォーラムの実施を更に活発に進めた。特許出願や他事業への橋渡しの形で成果を見せ始めている。 今まで築いた体制を元に、事業をより一層効率的に進め、成果を得る。科学技術コーディネータから平成 1 4 年度の育成試験候補の 1 2 課題に関する説明があり、質疑応答の後、育成試験課題として承認された。なお、補欠課題については、コーディネータに一任し、順位付けや採択等の取扱いを行うものとした。 優れた大学も多いため、大学間の連携を促進して、より大きな技術範囲のプロジェクトを実現してはどうか?との提案があった。

---

No.4	平成 1 5 年度	開催日時	平成 1 5 年 6 月 4 日 ( 水 ) 14:00 ~ 17:00
		開催場所	ホテルケイエスピー 7 0 9 会議室
	出席者		2 5 名
	議題		平成 1 4 年度事業報告 平成 1 5 年度事業計画 平成 1 5 年度育成試験課題について R S P 事業 , 産学連携等についての意見交換
	結論		平成 1 4 年度においては、育成試験の展開やフォーラムの実施を更に活発に進めた。製品化・特許出願・他事業への橋渡しの形で成果を見せ始めている。 今までシーズの蓄積を元に、事業をより一層効率的に進め、成果を得る。科学技術コーディネータから平成 1 5 年度の育成試験候補の 1 1 課題に関する説明があり、質疑応答の後、育成試験課題として承認された。なお、補欠課題順位付けや採択等の取扱いについては、コーディネータ会議に一任した。 各大学の産学連携体制の現状に関する報告があり、コーディネート活動の将来について意見を交わした。

---

No.5	平成 1 6 年度	< 第 1 回 >	
		開催日時	平成 1 6 年 4 月 2 1 日 ( 水 ) 14:00 ~ 17:00
		開催場所	ホテルケイエスピー 7 0 9 会議室
	出席者		2 1 名
	議題		平成 1 5 年度事業報告 平成 1 6 年度事業計画

平成16年度育成試験課題について  
R S P 事業，産学連携等についての意見交換

結論

平成15年度においては、育成試験の展開、研究会の組織と実施、展示会等を通じた成果の産業界へのPRに力を注いだ。

製品化・特許出願・他事業への橋渡しの形で成果の展開を更に進める。今までシーズの蓄積を元に、事業をより一層効率的に進め、成果を地域活性化に役立てる努力をする。

科学技術コーディネータから平成16年度の育成試験候補の11課題に関する説明があり、質疑応答の後、育成試験課題として承認された。なお、補欠課題順位付けや採択等の取扱いについては、コーディネータ会議に一任した。

国立大学の独立行政法人化後の産学連携体制について話題を提供していただき、大学の産学連携体制の現状に関する報告があり、コーディネータ活動の将来について意見を交わした。

-----  
No.6 平成16年度 <第2回>

終了報告会につき「かながわ地域大学リエゾン協議会」・「リエゾン事務局連絡会議」委員を加えた拡大大学研究成果移転促進会議として開催した。

開催日時 平成17年3月14日(月) 10:00～12:00

開催場所 ホテルケイエスピー709会議室

出席者	大学研究成果移転促進会議委員	12名
	かながわ地域大学リエゾン協議会委員	8名
	リエゾン事務局連絡会議委員	12名
	来賓	1名
	( (独) 科学技術振興機構 地域事業推進室 田部 真氏 )	
	事務局	9名
		(計 42名)

会議議題

委員紹介と座長選出(横浜国立大学飯田嘉宏学長の指名による代理者である横浜国立大学渡邊慎介副学長を選出)

神奈川県R S P 事業に関する最終報告

(代表科学技術コーディネータ 廣田 穰)

平成16年度事業報告

(廣田穰・前田敏弘・宮川政義科学技術コーディネータ)

意見交換

結論

5年間に亘る神奈川県R S P 事業の実施状況と成果に関する報告が行われ、地域での産学連携態勢の整備、シーズ・ニーズ情報の蓄積と利用、育成試験の成果と展開についての報告を了承した。

R S P 事業の成果を今後の地域における産学公連携に発展させ、地域を活性化する方策について意見を交換し、県及び財団の今後の施策に期待が表明された。